No.729 2013
SEPTEMBER
9
THE YMCA
The Young Men's Christian Association News

若者が変革をもたらす

世界YMCA同盟 総主事
ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィック

YMCAの“DNA”とはなんでしょうか。それは、「ユース・エンパワーメント」です。YMCA（Young Men's Christian Association）は名前の通り、「キリスト教“青年”会」であり、産業革命のときの起こりから若者らしい情熱と正義感によって運動が続けられてきました。しかし、欧米を中心とする近代化のなかで、ユース（若者）という存在は、特別なケアや関心が注がれる子どもや高齢者に比して、むしろ社会から“取り残される”ことが多くなり、実際YMCAにおいてもユースが主体性を発揮する機会や権限は減ってきました。

「ユース・エンパワーメント」を改めて考えるとき、その基本理念は「若者に権限を委ねること」「若者の主体性や責任感を育むこと」です。世界中のYMCAが今「ユース・エンパワーメント」という共通のキーワードを掲げて一つとなることによって、YMCAはより大きなインパクトを世界に与え、環境・貧困・平和・人権等、たくさんの課題を抱える時代において、希望ある解決の道を歩むことができるのです。

ユースとの関わりをさらに深め、より多くの若者を意思決定のプロセスに取り込んでいくために、YMCAは新たにさまざまなアクションを起こしています。その一つが、「チェンジ・エージェント」と呼ばれる、次世代のYMCAリーダーの任命と育成です。現在、世界で総勢約270人のおおむね18～30歳の若いスタッフやボランティア、メンバー達が、YMCAのビジョンを率先して体現する「チェンジ・エージェント」として、さまざまな研修や助言指導を受け、YMCA運動の担い手として活動しています。また、昨年10月13日に世界85カ国、1,000拠点を超えるYMCAで一斉に実施された若者主導のイベント「YMCAワールド・チャレンジ」は、世界中の若者が一体感と連帯感を感じる機会となりました。

「ユース・エンパワーメント」は、ユースの皆さんの積極的な協力がなければ成し得ないことです。変化を恐れず、勇気を持って、ぜひYMCAというフィールドで力を発揮してください。そして、YMCAのみならず、世界に変革をもたらす存在となってください。

（第2回同盟協議会で語られたメッセージより）

日本YMCA基本原則

私たち日本のYMCAは、
イエス・キリストにおいて示された
愛と奉仕の生き方に学びつつ
世界のYMCAとのつながりのなかで、
次の使命を担います。

私たちは、
すべての人びとが生涯をとおして
全人的に成長することを願い、
すべてのいのちを
かけがえのないものとして守り育てます。

私たちは、
一人ひとりの人権を守り、
正義と公正を求め、
喜びを共にし痛みを分かちあう
社会をめざします。

私たちは、
アジア・太平洋地域の人びとへの
歴史的責任を認識しつつ、
世界の人びとと共に
平和の実現に努めます。

2013年9月1日発行（毎月1日発行）
昭和22年10月27日　第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料60円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003　東京都新宿区本塩町7
TEL：03-5367-6640　FAX：03-5367-6641
URL：http://www.ymcajapan.org/
発行人／島田 茂　編集人／山根 一毅
印刷／あかつき印刷株式会社

RAPPORT
ラポール

相手と向き合って
心を合わせていくこと。
（仏語：親和・共感的関係の意）

期待し、期待されて生きる

ふじみ野
バプテスト教会
大島　博幸

長男は、小学校1年生の3学期から2年3カ月、小児病院に長期入院しました。大腿骨の骨頭が血行障害で壊死して扁平になり、骨盤との接合がうまくいかずに痛む「ペルテス病」のためです。この小児病院には、全国から外科的治療、内科的治療、小児がん治療を受ける子ども達が入院していました。長男と同じ病気の子どもも何人か入院していました。こうした子ども達のため、病院内には養護学校の分校があり、小中学生が治療を受けながら通っていました。

ある面会の時、長男の1年生の教室に行き、何気なく「今日の当番・ゆうなちゃんカーテン半分」という黒板の文字に目がとまりました。「これは何？」と長男に聞くと、毎日何かの役割がクラスの一人ひとりに与えられ、今日はゆうなちゃんがカーテンを半分開ける役割だったというのです。カーテンを開ける、しかもそれが半分という役割に驚きましたが、ここでは何かの役割が与えられることが喜びなんだと教えられました。担任の先生はクラスの一人ひとりに、その日の子ども達の健康状態を考慮しながら、その子が担えるような役割を与えているそうです。ただ、その中には亡くなる子もいて、それがつらいとも語られました。

私は自分の子どもが長期入院をして初めて、こうした学校の存在を知りました。車いすの子、点滴や酸素ボンベを持って通う子、ストレッチャーのままの子等、それぞれ必要な治療を受けながら学びます。命のぎりぎりのところで、命に向き合う先生と子ども達に出会ったことは、私にとって大きな衝撃でした。そして病気や入院というさまざまな制限がある中で、「期待し、期待されること」が生きる質を高めるということを知ったのです。

その時、私の心の中に次のようなイエス様の言葉が響きました。「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」（ヨハネ福音書13章34節）。イエス様は、イエス様に愛されて生きている私に、「互いに愛し合いなさい」と期待してくださっています。この期待を身に受け、心に刻み、真に「生きる」歩みを続けたいと願っています。

With Youth, For Youth, By Youth

変わるYMCA

第2回日本YMCA同盟協議会

2013年6月15日～16日、静岡県御殿場市の国際青少年センター東山荘にて、第2回日本YMCA同盟協議会が開催されました。本協議会は、日本のYMCAの、より緊密な相互協力と発展を推進する場として設けられています。全国の都市YMCAと学生YMCAから選出された約100人の代議員が、年に一度一堂に会して、YMCAの事業方針やその先にある社会のことを見据えて、今後のYMCA運動の方向性について協議を行うための場です。

世界YMCA同盟総主事のヨハン氏が強く訴える「ユース・エンパワーメント」（1面巻頭言参照）の日本における実現が目指された第2回同盟協議会の模様をご紹介します。

ユースが「参加」する団体から「参画」する団体へ

開会宣言する日本YMCA同盟島田茂総主事

「同盟協議会は構成員の1/3を18～35歳のユース世代から迎え、今、世界のYMCAに連帯して力強い一歩を踏み出しました。YMCAに関わるすべての人は、若者の自ら行動する力を一丸となって支えていきましょう。」

開会オリエンテーション

世代間コミュニケーションの見直しから

開会オリエンテーションでは、コミュニケーションの在り方を考えるための「コミュニケーション・ワークショップ」を実施。多様な世代で構成される全ての代議員が安心して発言でき、積極的に参画する協議会とするために、一人ひとりが守るべきコミュニケーションのルールについて考えました。

20代から80代までのバラエティに富んだメンバー

グループごとに話し合ったコミュニケーションルールを発表。「相手の話を最後まで聞く」「すべての人に発言の機会を与える」「発言者の話に集中する」「他者と競おうとしない」「話し合いのプロセスを大切にする」等、シンプルだが大事な意見がたくさん

基調講演

世界からの期待を受けとり ワクワク

全世界のYMCAが一体となったイメージ、それがユース・エンパワーメント。「眠れる巨人を起こして変化を起こそう」と語るヨハン氏

活発な意見交換も

スイス・ジュネーブより来日した世界YMCA同盟総主事ヨハン・エルトヴィック氏。ユースを中心とした新しいYMCAのビジョンが熱く語られました。

思いを共有し、YMCA運動を盛り上げたい

チェンジ・エージェント日本代表　**廣瀬 頼子**さん

ヨハンさんの講演では、「世界レベルのYMCAのブランド力を高める改革に一緒に取り組みませんか」という呼び掛けのもと、「YMCAは若者を育て、変革する団体である」という中心メッセージを世界に発信することの大切さが語られました。また、改革の担い手として、世界各国から約270人の若者が「チェンジ・エージェント」として選ばれたことも説明されました。この仕掛けは、「パリ基準」から「チャレンジ21」に至るYMCAの使命とビジョンを若者自身が伝え、共有するものです。具体的には、トレーニングや活動を通して自分自身が変えられ、思いを共有する若者と分かち合い、つながりながら、若者のためのアクションを支援する、ひいては世界YMCA運動全体を盛り上げていく役割を担うものだと考えています。

盛り上げる仕掛けづくりを！

チェンジ・エージェント日本代表として、私自身は、さまざまな場所のユースとつながりつつ、まずは環境をテーマにした「APAYチャレンジ」（10月予定）等の活動を通して、持続可能な社会について考えていきたいと思います。

【チェンジ・エージェントとは…】

次世代のYMCAリーダーとして、世界YMCA同盟、各地域YMCA同盟、各国YMCA同盟から任命を受けた、YMCAに主体的に関わる若いスタッフやボランティア。日本では、廣瀬頼子さん（神戸YMCAリーダーOG）、黒澤伸一郎さん（横浜YMCAリーダーOB）、永岡美咲さん（日本YMCA同盟スタッフ）の3人が、地域や世界レベルで実施されるさまざまな研修に参加し、新たなネットワークを築きながら、YMCAの使命やビジョンを広く伝え、共有するために活動している。

聖日礼拝

心合わせ祈る

2日目は、中道基夫牧師（神戸YMCA理事長）の司式による聖日礼拝が持たれました。大きなパンと富士山の天然水を皆で感謝して分かち合い、共に祈りを深める時となりました。「とりなしの祈り」の中では、協議会の中で共有された社会的課題や要請に対する共通の願いや決意が、3人のユースを通して語られました。

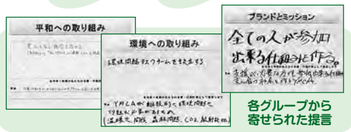
「わたしたちが目の前の社会的不平等に向き合うことができますように。そして、自分の中に染みついている限界や偏見が、自分をそして相手を不自由にしていることに気づきますように。自分の中にある垣根を越え、互いに尊重し、支え合う社会を、わたしたちYMCAの中に、そしてこの世界の中に築いていくことができますように。神さま、わたしたちに勇気を与えてください」（聖日礼拝・とりなしの祈りより）

グループディスカッション

今、共に考えたいこと、取り組みたいこと

テーマ別に小グループに分かれ、協議を行いました

平和への取り組み　環境への取り組み　子どもをめぐる社会変化　ジェンダーとYMCA　世界YMCA運動への連帯　など



各グループから寄せられた提言

決議の様子。議決権は各YMCAごとに1票。パネルを持って「賛成・反対」の意思表示をする代議員

◆2013年度同盟方針・計画に5項目の追加が決定！

2013年度日本YMCA同盟方針・計画は、「青年により、青年と共に、青年のために」(With Youth, For Youth, By Youth) を目標に、①地球市民としてのユース（青少年）リーダーシップ育成、②YMCA運動の強化、③東日本大震災復興支援活動という3つの重点課題を掲げています。具体的な事業計画としては、「国内外でのユース育成」「全国YMCAの事業やYMCA同盟機能の強化」「東山荘の活用」等が盛り込まれています。第２回同盟協議会では、これらに加えてグループ討議から下記の５つの事項が提案され、全国のYMCAで推進していくことが決議されました。

1. 日本独自のチェンジ・エージェントを組織化する。
2. 全国のYMCA、ワイズメンズクラブが取り組む環境教育プログラムの情報を収集する。
3. 環境問題に関するタスクチームを設置する。
4. 憲法を学ぶ機会を設ける。
5. YMCAに関わるすべての人が、多様な生き方を性差に関わらず認められる環境を目指す。

グループディスカッションに先駆けて行われたパネルディスカッション。「今、私達が共に考えたいこと」と題して、4人のパネラーによる発題が行われた。「YMCAにおける自らの経験を後輩に伝えること、後輩を期待し育てることによって、自らの経験がさらに意味を持つ」等、パネラーの発言は全体協議の良い導入に。

チャレンジをして、ユースが担うYMCAへ

大阪YMCAスタッフ　**池田 聡美**さん

グループディスカッションで、YMCAで働く若いスタッフの「ユース・エンパワーメント」をテーマに話し合いました。YMCAミッションの担い手として、私達ユース世代のスタッフには主体的な関わりとリーダーシップの発揮が求められています。けれど、経験不足が故の自信のなさから、発言が控えめになったり、目先のことで手一杯となってしまうことも……。結果的に、思いはあってもなかなか一歩を踏み出せないのが現状です。そうした課題が共有される中で、若いスタッフやボランティア同士がつながりを深め、互いに支え合い、活動範囲を広げていくために、日本独自のチェンジ・エージェントの発足と組織化を進めていこう、という案が上がりました。

新しい発想で

同盟協議会に参加して、YMCAはユースにとって開かれた場所であり、さまざまなことにチャレンジできるチャンスがあるという期待と希望を持つことができました。私達にどれほどの力があるのか不安はありますが、多くのことに興味を持ち、新しい発想で物事を考える力は、ユース世代の強みではないかと感じています。一人のユーススタッフとして、自らが動き、自らでYMCA運動を担っていく必要性を強く感じました。

NEWS
各地の動きをご紹介します。

●アメリカ人中高生の受け入れを実施 ——とちぎYMCA

アメリカ人中高生が日本のキャンプで飯ごう炊さんにチャレンジ

6月29日～7月29日、とちぎＹＭＣＡではアメリカ・コネチカット州にあるベケット・チムニーコーナーズＹＭＣＡ（ＢＣＣ ＹＭＣＡ）より13人の中高生を受け入れました。彼等はBCC YMCAのICEP(International Camper Exchange Program／国際キャンパー交流プログラム）を通して派遣されたキャンパーで、とちぎYMCAでは2003年に受け入れを開始し、今年で10回目を迎えます(2011年は震災により中止)。１カ月の滞在期間中に、ホームステイや同年代ユースとの交流、地域のボランティア活動等を通じて、グループの中で責任ある行動を学びながら、経験や知識を広げていくことを目的としています。今年も、キャンパー達の滞在が実り多いものとなるよう、たくさんの会員やボランティアの方々にご協力をいただき、受け入れを行いました。

来日した翌日からキャンパー達は、チャリティーラン、石巻の仮設住宅での花壇作り、老人ホームでのそうめんの提供、宇都宮の川の掃除、キャンプやデイキャンプ等、日本でさまざまな活動を体験し、「人のためになることができて良かった」「喜んでもらえてうれしかった」「ホームステイは今までの人生の中で一番充実した時間だった」「日本の印象が変わった」等の感想を残しています。

この交流プログラムを通じて発見や感動を得たのはキャンパーばかりではありません。プログラムに関わった日本の参加者やボランティアの方々からも、「海外にお友達ができてうれしかった」「これからもっと英語を勉強して意思疎通ができるようになりたい」「視野が広がった」等の感想が寄せられています。この交流プログラムは、多くの人の国際理解の第一歩となっています。

（とちぎYMCA　小野寺 温代）

●全国YMCA水上安全キャンペーン みんな泳げる25m運動 ——熊本YMCA

水泳が苦手な子ども達に、水中での体の使い方を指導。地元メディアでも取り上げられた

熊本YMCAは、全国YMCA水上安全キャンペーンの一環として、地域の小学校児童を対象に「みんな泳げる25m運動」を展開しています。主に水泳とプールの授業が苦手な子ども達を対象とし、クロールの息継ぎをマスターすることを目標としています。

6月に行った益城町立津森小学校への出張授業では、全校児童生徒を対象に水泳指導を実施。最初は緊張していた子ども達も、「大きく、ゆっくり」の掛け声に合わせ、「けのび」「バタ足」等で少しずつ体を慣らしながら、クロールのコツを学びました。授業の後半では、伸びやかに泳ぐ子ども達の姿も見られ、その顔は喜びと達成感であふれていました。

「みんな泳げる25m運動」は、広義には水中での体の使い方を習得し、生命を守るための「安全教育」の位置付けとなりますが、その根底には子ども達に「水泳技術を習得し、人生の幅を広げてほしい」という願いが込められています。「水泳」嫌いから、「体育」や「学校」嫌いとならないようにすること、そして「やればできる」という自己肯定力を身に付け、チャレンジできる力を付けること。「みんな泳げる25m運動」はこれらを達成するための運動とも言えるのです。

YMCAで活動するユースリーダーは、子ども達一人ひとりのやる気を応援する一番のサポーターです。参加したリーダーは、「弱さを担い、寄り添うこと」の重要性を子ども達と共に学びました。YMCAの大切する「共育（共に育つ）」の原点がここにあります。子ども達からも「プールが嫌いだったけど、リーダーから息継ぎのコツを習い、水泳が楽しくなりました」という感想が寄せられました。

（熊本YMCA　木村 成寿）

●ユースが主体的に学び考える、グローバルユースフォーラムを実施 ——大阪YMCA

6月1日、大阪YMCAにおいて「どう変わる、どう変える、ユースとグローバル社会」をテーマにグローバルユースフォーラムが開催され、2012年度に全国のYMCAで実施されたさまざまな国際プログラムに参加した学生、留学生、ユースリーダー、一般大学生、高校生等、約70人が集いました。ファシリテーターには、大阪YMCA会員の岩坂二規関西学院大学准教授を迎え、学生YMCA主催の「インドスタディキャンプ」に参加した久保田修平さん（関西学院大学）、大阪YMCA主催の「海外インターンシップ in ミャンマー」に参加した峰山希さん（同志社女子大学）と桝井佑梨子さん（大阪教育大学）より、事例報告が行われました。その後、9つのグループに分かれ、グローバル社会や身近な生活の中におけるグローバルについて、自由に話し合い、最後に全体で発表を行いました。

事例報告の内容を受けて、「物乞い」という行為について、日本と他国のホームレスの違いや背景等を深く考えたグループもあれば、「日本人の体裁を気にする国民性」が物乞いをさせないようにしているのでは、といった海外の人達の目線を通じて思いを共有したグループもありました。その他、さまざまな意見が出ましたが、「メディア等の情報を鵜呑みにせず、実際に経験してみる」「自分が学んだことをたくさんの人に伝える」等、少ない時間の中でそれぞれ自分達ができることを考えることができました。

大阪YMCAグローバル推進室Facebookページでも当日の様子や各グループの発表内容を紹介しています。ぜひご覧ください。

（大阪YMCA　齊藤 薫）

YMCAの国際プログラム参加者が、グローバル社会をどう捉え、どう関わっていくかについて話し合った

財団法人日本宝くじ協会から寄贈

財団法人日本宝くじ協会より、全国YMCA被災地復興支援活動のためにマイクロバスを2台、地域奉仕プログラムのために集会用テントを72張寄贈いただきました。

マイクロバスは盛岡YMCA宮古ボランティアセンターと仙台YMCA東日本大震災支援対策室に、集会用テントは全国16YMCAの42のキャンプ場および施設に配置され、地域に根差したそれぞれの活動に用いられています。

日本宝くじ協会から寄贈されたマイクロバスと被災地支援に訪れたシカゴウエストクックYMCAのメンバー

予告 APAYグリーン・チャレンジ2013開催！

期間：2013年10月18日(金)～31日(木)

アジア・太平洋YMCA同盟（APAY）の呼び掛けにより、“Green to the Core（環境への意識を私達の核心に）”をテーマに、環境への取り組みや環境保護に関するユース主導のイベントを実施いたします。

詳細近日公開予定：http://www.ymcajapan.org/（日本YMCA同盟）